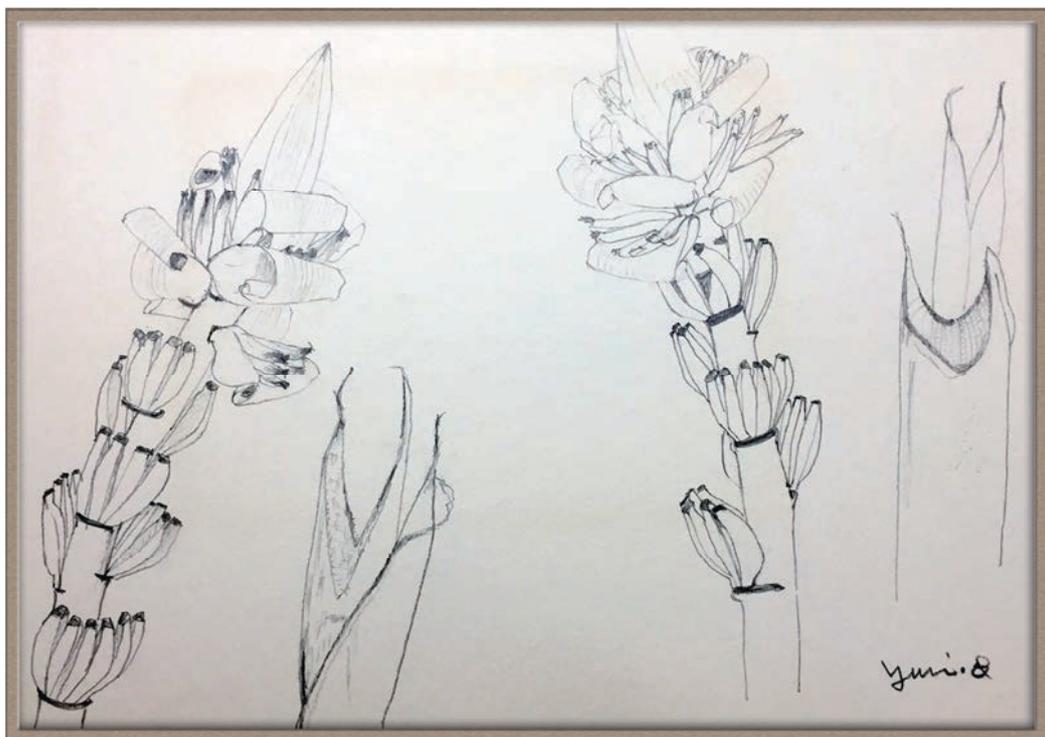


三河アララギ

2020年 10月 神無月 かみなづき

十 月 号

第 六 十 七 卷 第 十 号



ニューヨーク日記(168) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

NUR

Blue Shoe Diaries



気になっていたレストラン Nur やっと行けた! 予想ど通りに美味しかった~メニューは中東の料理。この茄子のカルパッチョ、見た目はもちろんインスタ映えしてるけど味の方も面白い。他にももう名物になっているセサミーのベーグル、イズラエル式でいつものNYベーグルとは違う。でも一番驚いたのはラム肉料理に付いてきたクスクスが! 今まで食べてきたクスクスは一体何だったのかと思うくらい違った。ふわふわでデリケート。実は作るのに結構手間がかかるらしい。

Bright colors and great contrasting flavors and textures all around. Exciting food at Nur. The eggplant carpaccio is a must, and not just because it looks stunning. There's so much depth of flavor. Everyone orders the sesame bagel to start and for good reason. Panipuri wakes up your tastebuds. Lamb chops cooked perfectly and that house made couscous makes you realize you never had couscous until now. It's so fluffy and delicate.

目次

第六十七卷第十号(通卷八〇二号)

表紙・花バナナ	今泉 由利(1)	水野 絹子(24)	田中 清秀(33)
ニューヨーク日記(168)	Blue Shoe(2)	牧原 規恵(24)	植村 公女(34)
アカンサスの徑	御津 磯夫(4)	稲吉 友江(25)	木村 歩歩(34)
ははきくさ	大須賀寿恵(5)	鈴木美耶子(25)	今泉 如雲(35)
歌集「續々草々」	今泉 米子(6)	吉見 幸子(25)	今泉 由利(35)
ははきくさ	河原 静誠(7)	牧原 正枝(25)	田中 清秀(36)
月白く	岡本八千代(8)	東洋大学	かさね吟行会
蟋蟀	弓谷 久子(10)	大田 洋輔(26)	『酔いの徒然』(102)
コーヒーノキ属	今泉 由利(12)	原 幸生(26)	楽しい時間(95)
今年竹	安藤 和代(14)	御厨 憲人(26)	絹の話(119)
黙禱	清澤 範子(15)	米田 彩花(26)	本田カイロプロフラクティック先生の春夏秋冬
特別の夏	伊藤 忠男(16)	木村 恩生(27)	「江上浩二の独り言」
蝉時雨	矢崎 直人(17)	島根 花歩(27)	漢詩研修(四十八)
露草	森岡 陽子(18)	仁部 晴斗(27)	「聴く耳を持つ」
御馬港	白井 信昭(19)	新井 将(27)	偶成
地蔵盆社	杉浦恵美子(20)	森岡 陽子(28)	仏像彫刻(九)
無事故	阿部 淑子(21)	童謡 「かわいいニャンコ踊り」	芭蕉と子規
梅干	山口千恵子(22)	高橋 育郎(30)	「氷魚のことから(27)
ただ歩く	夏目 勝弘(23)	森岡 陽子(32)	編集室だより(二〇二〇年八月)
『こゝよせ』	いーはとぶ	山元 正規(32)	今泉 由利(58)
	森 厚子(24)	松本 周二(32)	野菜・果物・まんだら(32)
	山崎 俊子(24)	重野 善恵(33)	「三河アララギ」について
	三田美奈子(24)	浜田 紀政(33)	(60)

アカンサスの徑

御津磯夫

人の病を診てすぎ来たり四十年みづから病みて子らに診らるる

六月経て帰りしわが家よ冷びえと古きたたみに足をのぼしぬ

白沙に山葵しげれる春のうた文明先生の色紙をかかぐ

手術後の貧血の手を撫でてをり老いの皺にはかげさすものを

あかときの夕べの鐘もわれに来ず御堂の間のが家わが部屋

二千ccの輸血ははやく消えゆきて老いのわが血のうすきに生くる

紅濃く描きし君の紅梅の咲きそめて今年は亡きかずに入る

ジャングルより還り来りてそれぞれに二十八年の時すぎにけり

篤かりし病癒えゆく日々といへどもはや残年のいくばくも無し

辛うじて死をのがれ来て横たはる咲きそめし今年の紅梅の下

ははぎくち

大須賀寿恵

眼鏡かけて視野せまくなりし吾はけふ机や椅子の角にぶつかる
試供品とりてそのまま飲まざりしビタミン剤にかび生えてきぬ
秋深み金魚の動作にぶくなりぬ餌をまけども浮き上り来ず
やうやくに生きゆかむと覚悟せし朝を母引く車のあと押しゆきぬ
水泳より帰り来し子の足の傷にマーキョロ塗れば潮の香のする
栄転の人等賑わしく出て行き吾ひとり事務室に原紙切るなり
亡き母の夢見し今朝はしみじみと仏壇に向ひ香などたきぬ
学校に吾子は馴れつつ今朝はスカート長きをすねていでゆく
吾にも吾子と呼ぶべき幼ありて動物園の熊を見に来ぬ
ゼラニウムの赤とピンクは盛りにて蝶舞ふ庭に洗濯物ほす

歌集 「續々草々」

今 泉 米 子

安礼の埼引馬野の歌の磯夫の文字青銅版にうつされにけり

広前の老松寂けき秋の日に引馬野安礼の埼の碑を建つ

神域の榛原も萩の花原も草刈機してあとかたもなし

万葉の歌碑を建てたるめぐりには人の心の紅萩を植う

幾度の高潮に朽ちし二の鳥居の脚を石にせるところよろしき

冽らかに湧井の水の噴くところ引馬野は持続女帝の御幸かなひし

ものの音絶えたる如き庭の奥にアルゼンチンのオンブー育つ

幼きが遊びの種子より直ぐ立ちて天に向かへるオンブーの木

庭草の中より拾ひし冬瓜にこの幾朝の汁のうまさを

万両の稚き実生むらがりて今年の夏はわが草叢よ

ははぎくち

河原静誠

真夜中の投薬うけつつ独り誦す看病福田はえれ第一也と

吾独り病むと呪ひし夜半にして遺経を誦す今静かなる

枕辺の牛乳びんの八重桜葉桜となりてなほも臥しをり

退院の荷をまとめ終へ長き月日横たはり居しベットに見入る

紅のさつきの薬育てむと朽ちゆく親木の根本に結ぶ

梅雨にぬれて芋挿しいそぐ媪あり声を交はさず畑道をすぐ

園庭に丸く石にてかこみたるは古き御堂の須弥壇の跡

詠唱検定に臨みし吾は未だなほ声の弱き減点されぬ

五年前みまかりし伯母の縫ひませし室町袋を日毎用ふる

御仏に供ふる芙蓉剪らむとて雨の音する朝疾く起きぬ

月白く

蒲郡 岡本八千代

おもむろに茂吉全集第一巻の「をさな妻」の頁今開かむとす

茂吉全集開かむとするに背文字の忽たちまち光れりその銀の色

「をさな妻」十一首載りをりどの歌も吾には茂吉の抒情を感じず

「をさな妻」ここに持ちて」の茂吉の歌いつまでもわが心残れり

コロナ禍に訪れる人ひとりもなく外出さえ止められてゐる若い人われは

庭の中にちらちら紅あかくゆれるもの近サルスベリずけばああ百日紅の花

二つのめの百日紅の花の枝々ゆれゆれてをりそれだけが嬉し

日に三度^{たび}体温計りて平熱に安堵をしつつ暮らすわれかな

ホトトギスも枯れつつあるに驚きてよろよろけ水を注ぎぬ

だんだんと独り^{ひと}ぼっちの活^{くわ}しにも馴れてきたるか白き月見てをり

今宵出でし月は旧曆十三夜しばし眺むるひとときの心

今宵出でし半月白しその淡き光の中にわが天つ君よ

南の方しろじろと出でし今宵の月わたしの一日^{ひと}も過ぎゆきにつつ

われにまだ明日^{あした}は明日の一日^{ひと}のあらむ信じて今宵の窓を閉めたり

窓閉^しめてまたも読みかけの本を読むテレビも止めて静寂の中

蟋蟀

豊川 弓谷 久子

遅れぬし梅雨は明けたり八月の青空眩し真夏来りぬ

エコバック今日も縫いをりレジ袋廃止となりし買物のため

忘れまじあの空爆を町中にサイレン響きぬ八月七日

冷房の無き病院の思い出よ兄逝きし夜の八月十日

裏道へ抜ける小路の草を掻く貰いし草掻き切れ味のよし

移り来て今日にて一年住み馴れし家の如くに暮し来りぬ

向日葵の花素枯れをり例の無き昨日一日の高温のため

茫然と佇ちて眺むる焼け焦げし向日葵の花の一群を

救急車の音又聞ゆる熱中症か高温注意報今日も出てをり

夏祭りの花火の音も境内の盆踊りも無し只の暑き夜

浴衣解きサンドレスにとりホームす子と子の友とのペアルック

二十四日ぶりの雨なりひとときを轟く雷どしやぶりの雨

蟋蟀の声を聞きをりエアコンのタイマー切れしあかとき近し

大陸へと台風八号それ行きて先の見えざる猛暑はつづく

こもりゐるくらしも楽し子の点てくるる冷たき抹茶葉月も終る

コーヒーノキ属

東京 今泉 由利

アラビア種コーヒーノキ属アカネ科にて権現山の頂上に立つ

星型の五枚花卉の白い花咲くはいつ水注ぎゐる

一木いちぼくに花咲き実のなるコーヒーの木ひと日ひと日の成長見ゆる

この夏を十五センチ伸びしことコーヒー木と共に暮せり

ひと葉ひと葉掌に受けて清めゆくコーヒーの木ピカピカ光る

木の丈の一メートルを過ぐるころ白き花咲くコーヒーの木は

天然の木材と心して壊れゆかざるもの作らむとす

日本の縄文・弥生に連らなりて穏やかにゐる私の一世

自らの自然の心を信じつつま向ひをりぬ檜角材

今日の日はニューデリーと東京とほぼ同じ気温と報ずる聞こゆ

思ほふは祖父母のこと父母のこと今日の一日も静かに暮るる

麹菌の活性うながす太鼓の響この荘厳よ私にも響く

アンデスのミイラ包みし手織の布も仕舞ひてありぬ私のダンス

ひとりだけ居る家の中自分ひとりの範囲やすけし

電池あり水ありお米あり今日の一日も外へは出ない

今年竹

豊川 安藤 和代

今日あした明後日まで雨と言う今年竹重く頭垂れおり

町内の木立少なき梅雨の間をブロック塀にくま蟬の鳴く

朝顔を三ツ咲かせて友からの絵手紙届く梅雨明けの庭

ファンでした三浦春馬の命思う窓を静かに細き雨打つ

バイパスに沿って紅なる百日紅梅雨明け空に映えて盆来る

夏野菜籠いっばいに汗いっばい友持ちくるるふる蝉しぐれ

母呼ぶや子呼びいるや山鳩のデーボボーと啼く盆の朝

祖父母父母嫁夫妹よおいでませ暑さ忘れて迎え火をたく

生いれば七十才なる妹よ二才のままではほ笑みており

コロナゆえ孫子等も来ず盆の夜をお迎え提灯小さくゆるる

出来ないとなげかず出来る喜びを今年も庭に向日葵咲かす

黙 禱

春日井 清 澤 範 子

マスクつけ天皇皇后両陛下誠を正して静かに黙禱

町内の役員会もコロナ禍の中にありけり密を避けつつ

楽しみて夫は畑に南瓜植う九十歳の老の身なれども

毎日に夫は畑を見まわりて南瓜よしよし吾に報告

畑見まうに蚊の対策をしてほほかむりいそいそ大安今日の収穫

狭窄症の手術後傷跡残る背にわれは今日も湿布薬はるなり

そんな夫の庭の空地に栗南瓜植えて手塩にかけ今日の収穫

テレビ見ていつしか夫は眠りをりそんな夫の肩をもむ吾は

娘の車にてスーパーへ来ぬ夫は西瓜をたたきて買いぬ

コーヒー店の工事に田は壊さるる並びの田もまた駐車場に変わる

特別の夏

大阪 伊藤 忠 男

残暑すら気遣う余裕無き今年特別ならば良しとすべきか

新しき夏はWEBにアマゾンか居ながら暮らし楽しむがコツ

特別の夏となるのかオンライン法事帰省もバーチャル世界

体温を越える暑さに意識すら遠退く日差したため息ばかり

亡くなりて4年の月日流れたか母の面影迎え火の中

マスクして左手スマホ右手ファン今年の夏のスタイルなりや

浴衣着て島田の帯に下駄の音思ひ出今は昔になりぬ

実を付ける稲穂も頭垂初め夏盛り過ぎ赤トンボ舞う

蝉の声とって変わるか虫の音に未だ変わらぬ夏盛りとて

死を前に未練はあるが悔いは無し常に前向き我の生き方

蝉時雨

東京 矢崎直人

停電で稼働のレジは二台のみ我も我もと其処に群がる

朝顔の一夜に刈られ雑草に北大塚の線路の袂

ひとけなきSLの待つ公園に樹々を揺すれる嗚呼蝉時雨

天中やよく鳴いて飛ぶ鳥たちの思いの外に暑さに強し

一歩ずつ横断歩道を歩く鳩羽根を持つのに飛んで行けるに

終戦日横断歩道蝉しぐれ新宿の街人通りなく

大事にて大人になる日早まりぬ夢と希望を支える語り

ジョギングを終えて入りしコンビニに首相の辞任新聞黒々

一尾ずつパックの秋刀魚スーパーで鰻の如く大事に売られ

露 草

東京 森岡陽子

どの店も買い物袋が有料とついでに寄るは袋代五円

露草で染めしは直ぐに色あせぬ淡い藍色着物は誰のや

谷の村夏蝉秋蝉揃いをり風にぶつかり蝉時雨見事

古民家の庭のすみには酔芙蓉ひとときの日義姉のおもかげ

処暑すぎもマスク外せぬ生活に残暑の続く残暑の日々なり

裏盆会神田の町を友人と竹むら行くも暖簾出ていず

マスクして検温終へて店の中コロナ予防と消毒もしっかり

テレワーク全く出来ぬ介護職家人は毎日待ち人の元へ

御馬港

豊川 白井 信昭

み社の雨露にうきたつ紫陽花濡れたる花片びら艶やかなり

匠真のせべビーカー押す散歩道ふかれて涼し御馬港

町をゆく人それぞれに個性ありカラフルなマスク増えて来たりぬ

最上川降雨線状帯かかりつつ茂吉の古里大石田つかる

水やりに今日も追われぬ咲き盛る色とりどりのさ庭辺花壇

ほつほつとジャスミンの花門口に歌誌待望の八〇〇号きぬ

かねてより祭りも中止とみ社の神事のみにて静かな土日

隣り合う同じ処にサルスベリ今年も違わずピンクの開花

西つ方遠く見据える橋灯る竹島の海そ蒲郡夜景

地藏盆社

蒲郡 杉浦恵美子

灼熱に枯れ色したるスベリヒユ石畳の隙生ひたるがため

石畳スベリヒユさへ灼けつきぬこんな処に生ひしばかりに

この夏はコロナ禍灼熱益すらもささつと済ませる墓参りかな

亡き人が還って来るとは如何な意味我が心には常に居るのに

殊の外暑がりの母今在らば日に幾たびも行水使はむ

黄昏が迫れど巷に滞る熱氣に風はそよとも吹かぬ

求め来しリュック背に負ひ姿見に映る当てなき旅の姿よ

コロナ禍に今年は中止の地藏盆社も空かれてことさらわびし

ありとある行事をすべて取り止めて如何なる未来かコロナ後の世は

夫在らばコロナの不安緩和せん今我感染ありやなしやの

無事故

横浜 阿部 淑子

猛暑日は観測史上最多なり窓を開ければ空気は燃えて

海水温三十度超えの日が続き巨大台風本土を狙う

新幹線客の減少緩和へと水揚げ魚を東京へ運ぶ

地球上にはびこるコロナウイルスに互いにいたわる感染対策

予告避け夜空に拡がる夏花火コロナの終息願いて仰ぐ

怠さにも負けじとりハビリ励む夫冷えたすいかが楽しめと言う

ここのとり宇宙輸送船十一年独自技術で無事故貫く

梅 干

豊川 山口千恵子

小さき苗植ゑて幾年たちにはけり凌霄花は花散らせつつ

抜け殻の近くにとまりゐし蟬一つ電柱目がけてとびてゆきたり

晴天の続ける日々にザルに干す紫蘇に色付く赤き梅干

干し上げて赤く色付く梅干しをビンに詰め込み戸棚にしまふ

あしたよりひびきわたれる蝉の声今日の暑さを思ひてをりぬ

乾きたる土にぼつぽつ芽生えはじめ休耕田にまかれし大豆

朝射す日ざしよろこび俎を洗ひ干したり朝日の中に

ミニ蓮の花一つ咲く梅雨の晴れ間の風にゆらゆら

庭の甕に金魚も目高もたえはててよどみし水にぼうふらのすむ

秋葉様の御燈明あげろうそくのともりし炎たしかめつつ帰る

ただ歩く

豊川 夏目勝弘

方丈記に足は乗り物と言ひ得たり我が乗り物もこの二本の足
二百メートル先のコンビニに行くのにも車を使ふいと多し
二足にて歩くことを許されし我は人間ひたすら歩く

正しく見正しく語る行動は正しく歩む日日の日課とし

小股にてゆつくり歩くが正解と知りたるうれし楽しく歩まむ
十キロを走ることとは出来ざるもゆつくり歩めば楽しく行ける

人間も動植物も平等に一日の時間は二十四時間

通学の子等の過ぎたる野中の道老い人我の一人の道ぞ

今日一日無駄に使ひし金はなしされど時間はいかにやあらん
生涯をただひたすらに歩みぬし松尾芭蕉を尊みにけり

『いよよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

短冊に笑顔で元氣と願いこめ竹に吊るさむあすは七夕

森 厚子

今日も雨雨もコロナも過ぐるかと見えて今また第二波くるか

しとど降る雨にやどれる子燕よたよりなに一羽のきしたにとまる

山崎 俊子

雨あひに草刈をへし城址に草の香たつなかわればつねんと

巢離れの童わらわんべつばくる電線に止りてをりぬ燕尾の愛らし

三田美奈子

電線に音譜のごとく並びをり燕つばくらめらの囀り楽しげ

やあ元氣と名古屋に集ふも年一度還曆過ぐれば安否確認

水野 絹子

けんか後ごにけなす言葉をかき集め我はにんまり蝉も鳴き初む

たびたびの異常気象のニュースあり天気予報に一喜一憂す

牧原 規恵

年二度のありがとうねのやりとりについ長々の近況語らふ

軒下にゴーヤ植ゑたる二日目の明け方に聞くしげき雨音
あらためて何するでなし自肅の日庭の草など丁寧に抜く

稲吉友江

三十分だけねと入りしカフェなれどまだまだ語らふ友と私

鈴木美耶子

思ひがけず「身近な野草」の本いたたく表紙に朱き野アザミの花

文月になりて庭には半夏生そほ降る雨に白白の群れ

吉見幸子

禁とけて学童たちの登下校マスクかけてのキャツキャツの声す

日にちから曜日になりて今ごろは何に押されて暮しゐるかや

牧原正枝

疲れなのか何故か震へる右の手よ「むきになるな」と夫は言ひしに

現代学生百人一首

東洋大学

ありがとうLINEではなく電話する母から届いた荷物眺めて

早稲田佐賀高等学校一年（佐賀県）

大田洋輔

川の中すけた水中光差し小魚たちが光っているよ

佐世保市立祇園中学校一年（長崎県）

原幸生

学問の神様という道真に来年のためしつかり拝む

佐世保市立清水中学校三年（長崎県）

御厨憲人

夏休み異国の地での女子会で世界共通恋愛話

慶応義塾ニューヨーク学院十二年（アメリカ）

米田彩花

かまきりの小さなかまの手をのばしつかみたいのは空と友の手

福島大学附属小学校四年（福島県）

木村 恩生

発表会シャープとフラットよく見なきや一小節で全てが決まる

印旛郡栄町立安食台小学校五年（千葉県）

島根 花歩

飛び出るよ苦勞の火花鉄工所キラキラ光る銀の鉄から

印旛郡栄町立安食台小学校六年（千葉県）

仁部 晴斗

サツマイモうまく育って引っぱると兄弟いっぱい家族みたいだ

堺市立新浅香山小学校五年（大阪府）

新井 将

贈呈誌

森岡陽子

月虹 135号

○干されゐるマスクの向かうに吐く息を思はずやうに薄き雲浮く

井村喬泉

○山百合を咲かせて建てる具会一処故人偲び居て蚊に刺されけり

駒ヶ嶺泰秀

○何処よりか飛び来て根づきし蒲公英を避け門前を行ったり来たり

桜井範子

○雲を洩る光にいたも輝ける水たまりあり河身より広く

鮫島満

○今一番つなぎたいのはあなたの手ちひさくやはくとけさうな手です

八幡道子

冬雷 9月号

○砕け散る滝のしぶきに青々と濡れ光りたる苔の岩肌

嶋田正之

○夕焼けの大空田の面にひろびろと早苗の線しま模様なす

橋本文子

○わが窓の下にあぢさゝる項垂れて梅雨のあめなか露をこぼしつ

赤羽佳年

○庭あちこち土竜の土の盛り上がり去りたるらしも漁り尽くして

須藤紀子

○伐りてより立ち枯れしゆく桜の幹樹皮のはがれて蟻のいきかふ

野村灑子

○紫蘇の葉の陰に寝そべり思うまま大きくなりたるきゆうり発見

林美智子

○草群れに風は光を運びくる葉先煌めきて光を返す

本郷歌子

○メス蜻蛉飛びつつ水辺につんつんと卵落とすをくり返しをり

山本述子

○蛞蝓の証拠が光る葉を残し白き花びらみな食べられつ

齋鹿ミヤコ

○風立ちて葉裏を返しうねり来る青田の香りの満ち満てる道

山口不二子

かわいいニャンコ踊り

高橋育郎 作詞

ニャンニャン ネコちゃん踊りだす

右手をあげれば 招き猫

しあわせ呼んでる うれしいな

シャンシャン元気に ソレ踊れ

ニャンニャン ニヤニヤんと踊ろうよ

ニャンニャン ネコちゃん踊ってる

背伸びをすれば 見えるよね

明るい未来だ たのもしい

ルンルンそろって 踊ろうよ

ニヤンニヤン ニヤニヤンと踊ろうよ

ニヤニヤン ネコちゃんかわいいな

ごろんところがり 眠り猫

いい夢みている たのしそう

スヤスヤあしたも よろしくね

ニヤンニヤン ニヤニヤンと踊りましょう

『俳句』

坂道のパン屋のテラス処暑の風

森岡陽子

古民家の長きひさしや秋風鈴

法師蟬山門奥の保存木

城壁の反りを映して水の秋

山元正規

雨あがりいつか蜻蛉の空となる

晩節と言ふは何時より桐一葉

威銃(おどしづつ)高压線の延々と

松本周二

茅葺きに迫る裏山法師蟬

満潮やおぼこの下りひたすらに

草叢の緑褪せゆく晩夏かな

重野善恵

一輪の底紅醸す茶席かな

雲水の素足で歩く長廊下

一晚だけ上京の子と茸飯

浜田紀政

故郷のリモートで見る盆の月

青大将に道塞がるる都会つ子

秋の野のまだ定まらぬ雲の色

田中清秀

神木の御幣新し秋の声

掌で終(つひ)のひと鳴き秋の蝉

テレワークひと日暮るるや半ズボン

植村公女

スーパ-のはじっこにあり草の市

待ちぼうけ慣れているなりサングラス

庭木揺れ飛ぶ蝉喰らう尾長鳥

木村歩歩

立秋に逝く腎移植して三十年

木槿咲き笑顔の遺影今帰る

片陰に托鉢の列鈴の音

新涼や鶴も菅江真澄も入りし湯と

今泉如雲

大鰐の茄子大鰐の紫蘇で巻き

夕顔や嘉祥の日とて饅頭を

起伏して麻布台地の木下闇

今泉由利

ひとり居に守宮一匹加はりぬ

かにかくに紅葉かんざし京舞妓

葉せし芭蕉の恋句涅槃西風

子規句集

大空の真つたゞ中やけふの月

名月やすたくありく芋畑

何神か知らずひわだの苔の花

音もなし松の梢の遠花火

行く我にとゞまる汝に秋二つ

かさね吟行会

「みその公園横溝屋敷」 8月

田中清秀

関東では村の長（おさ）を名主、関西では庄屋、東北では肝いりと呼び、身分は百姓だが村びとと力を合わせ田畑の開墾、溜め池作りなど一村の民政を司っていた。今回のかさね吟行会は鶴見区獅子ヶ谷町にある旧名主の横溝屋敷を訪ねた。ここは古民家として、当時の農村の原風景を残しており、文化財保護条例に基づいて昭和六十三年に横浜市の指定文化財第一号として認定されている。

屋敷の構えは茅葺きの長屋門と二階建ての主屋、蚕小屋、穀蔵、文庫蔵の五棟からなり、江戸時代の農民の生活を身近に感じられる貴重な文化遺産である。旧家らしい広い居間と立派な大黒柱、大きな竈を備えた厨、板戸を外した奥座敷には涼しい風が吹き抜けて、真夏の暑さを忘れさせてくれる。

つやめける大黒柱秋涼し

開け放つ三部屋つらぬくつくつくし

松本周二

森岡陽子

広々とした前庭には、干し草や干瓢の天日干しが並び、花壇にはまだ青みがのこる柿やホオズキの実がなっていた。ホオズキは薬草でもあり、球形の萼が袋状に赤く熟し、中の果実は丸い液果で種子を取り除くと吹き鳴らすことができる。子供の頃、遊びで鳴らした懐かしい音が思い出される。また、昼中にも拘わらずどこからか掠れた鶏の声聞こえてきた、そして裏山の鬱蒼とした雑木林からは夏を惜しむツクツクボオシの鳴き声もかまびずしい。

鬼灯の熟れて明るき葉裏かな

山元正規

ほほづきの後（しり）まだ青し長屋門

田中清秀

にはとりの時を違へし残暑かな

森岡陽子

主屋の欄間や障子には様々な意匠を懲らした彫刻がきざまれ、茶席用に据えられた水屋があり、さすがに一味違う洗練され佇まいとなっている。さらに急な階段を二階に上ると、農民生活を物語る品々や蒔絵の重箱など多くの民俗資料が置かれていた。また、貴重な古文書や細かな絵図と地形の模型も展示され、祭の道具や晴れ着なども飾られてあり、江戸から明治にかけての農民の生活

が偲ばれる。

屋敷前の水田では小学生の為の「五郎兵衛稲作教室」が毎年開催されるという。六月の田植から草取り、十月の稲刈りや脱穀まで、ここで都会生活に慣れた子供達が農作業を楽しく自然と触れあいながら実際に学ぶことが出来る。同時に、この頃少なくなつた農家の生活や暮らしぶりなど伝統文化の継承にも大きく貢献すると思われる。

越屋根の茅葺二棟秋の蟬

竹筒に投入れのまま花芙蓉

終戦日庭に夕顔干される

山元正規

田中清秀

松本周二

話しはそれるが、このあたりの土壌を肥沃にし、獅子ヶ谷を豊かな水田地帯としている鶴見川は古来より暴れ川と呼ばれ、幾度も氾濫を繰り返して水害をもたらした。近年でも昭和十三年の鶴見川大水害、同三十三年の狩野川台風、同四十一年に襲来した台風四号により二万戸近くが水没している。しかしその後、国と流域自治体との協議による総合治水事業が全国に先駆けて実施され、昭和五十七年の台風十八号による浸水被害以降は大規模な水害は起きていない。また、競技場として作られた新横浜の日産スタジアムは鶴見川の氾濫時の遊水池としての

機能を持つており、洪水時にはスタジアムの下に水を流しこみ被害を低減させる仕組みになっているという。このような多目的で異次元の発想は都市化の進んだ現代において、安心な生活を守る上で大きな柱となっていると思われる。

吟行後の句会は先月と同様、大倉山記念館の会議室を使って行われた。木組みを用いた優雅な部屋は参加者四名には広すぎるスペースだが、三密対策になり、ゆったりした実のある句会となった。古民家探訪の吟行会は、猛暑の中いつものように三句出し四句選で行い無事に散会した。

■かさね吟行会■

日時 二〇二〇年十月九日(金)

場所 千葉県袖ヶ浦

集合 川崎駅時計台下 10時

申込 森岡陽子宛 (03) 3712・2835

『酔いの徒然』(一〇二)

丸山 酔宵子

『根岸の黒塀「鍵屋」』

東京の老舗居酒屋と言えば、明治38年創業神田「みますや」で建物としては最古と言われているが、安政3年(1856年)根岸「鍵屋」は酒問屋として創業し、店の一角で酒を飲ませる角打ちに端を発し居酒屋となったのである故、最古の居酒屋とも言えなくはない。

新型コロナ禍、東京で連日の200人超えが続き、第二波襲来かの梅雨の晴れ間、新卒で入社した外資系広告代理店のH先輩とS後輩3人での「鍵屋」での久々の一献である。

我が先輩H氏は生まれも育ちも根岸、慶応幼稚舎からの生粋の慶応ボーイ。実家の近くの「鍵屋」には粋な父親の代から通い続けているとのこと。銅板作家でもあるH氏の繊細な下町風景の力作が上がり正面に飾ってある。

粋な黒塀に囲まれ、打ち水された入り口軒先には縁台が置かれている。品の良い清々しい白い大きな暖簾を潜り、引き戸を開ければ大正浪漫のレトロな空間が広がってくる。年季の入ったカウンターに腰をおろし、まずはビールで乾杯、お通しは素朴な和辛子風味の『みそまめ』。

ほぼ半世紀も通っているH氏のオーダーと店主のタイミングは絶妙で、続いているアテは香り高い醤油をたらした香ばしい「たたみいわし」。洒落た角皿に盛られ、掌(てのひら)でバリッとつぶし、歯ごたえを楽しむのだが、これには矢張り熱燗に限る。

爛付けはカウンター前の渋い光沢を放つ銅製御燗器に、白磁の細長い徳利を入れ、こまめに温度をみながら徳利の位置を入れ替えて仕上げて行く。人肌の燗酒には、年季の入ったタレでの焼き鳥も勿論秀逸であるが、売り切れ御免の名物『うなぎくりからやき』。パリッと香ばしい皮にしっとりした身と脂のコクに山椒をパラッと振れば、舌先にヒリッととした痺れが堪らない。辛口菊正宗を小ぶりのお猪口で、その痺れと香りの余韻を楽しむのである。

鍵屋には一つだけ守らなければならぬちよつと奇妙な決まりがある。それは、一人でも、グループでも、女性だけでの入店はご法度であること。

「時代に合わないと思うんですがね……。先代の女将からの遺言なんでね。その代わり、女性5人が入店しても男性を一人連れて一緒に来てくれれば大丈夫ですよ……。」

根岸の静かな住宅地の一角に佇む「鍵屋」には、床に臥す前の正岡子規も散歩の途中で立ち寄り一杯やったかもしれない……。

梅雨の間に根岸の黒塀子規想う

酔宵子

楽しい時間 95

山本紀久雄

2020年8月31日

鉄舟から影響を受けた九代目市川團十郎・・・その一

今月号から鉄舟から大きな影響を受けた九代目市川團十郎について述べていきたい。

谷崎潤一郎が昭和初年に書いた『饒舌録』（中央公論社 第20巻）に以下の一節がある。

『明治以後の芸術家のうちで、一番早く欧米にその名を知られた者は、九代目團十郎ではなかっただろうか。（貞奴のように此方から出掛けて行った者は除外）「團十郎はえらいもんだ、團十郎と云えば西洋へ迄響いていて、團十郎が風邪を引くと彼方の新聞にも出るそうだ」と、子供の時分に私はそんなことをしばしば聞かされた。果してそれほど有名であったどうか分からぬが、歌舞伎劇は浮世絵に比べると西洋人にはずつと取り付きにくいものであるにも拘らず、團十郎ほどの俳優になれば矢張り知れずにはいなかったのである』

エルヴィン・フォン・ベルツはドイツ帝国の医師。明治時代に日本に招かれたお雇い外国人のひとりで、滞日は29年に及び、医学を教え、医学界の発展に尽くしたが、明治36年（1903）の九代目團十郎葬儀について日記で述べている。

『九月二十日（東京）

今日、團十郎の葬儀。かれの死により日本は最も卓越した俳優、恐らくは古今を通じて最も偉大な俳優の一人を失った。かれの芸術は言語の拘束を超越して、およそ人間性の奥

底にまで到達していた。團十郎の芝居を観ることを、日光や宮ノ下（箱根）の見物と同様に「日本觀光日程」中に加えていた幾多の外人旅行者が、かれの演技にいたく感動させられているのを、しばしば見受けたものだ。かれの役は、概して悲劇的及び史劇的のものであった。昔の日本風に、外面は自制するという社会のおきてのもとで内部の心の動きを、単に身振りの上の暗示によってのみ表わすことにかけては、かれに及ぶものはない。

なお、この團十郎は日本の社会生活に一時期を劃した人物である。かれの青年時代には（ちなみにかれは六十六の齢を保ったのだが）俳優たちはまだ全くさげすまれ、ほとんど人間社会の外に置かれている有様だった。かれらは「爪弾き者」だった。團十郎の父から出た言葉に「にしきを着ても畳の上の乞食」というのがある。つまり「きんらんを身にまといながらも、われわれは社会の乞食に過ぎない」というのだ。それが今日の葬儀には、日本最高の政治家伊藤侯が親しく参列していた。その上、侯は甲辞を朗読して、故人を当代の最も卓越した人物の一人である称賛した。團十郎は、その階級を世人の眼前で、従来夢想だにしなかった程度に向上させたことを誇つて可なりだ。近代において日本の社会的変革が、これほど明白に現れたことは、他にほとんど例を見ない』

このような高い評価は、他に幾人もの欧米人からも受けている。

この九代目市川團十郎が、鉄舟邸にしばしば訪れ感化を受けていたという。それを『おれの師匠』（小倉鉄樹著）が次のように述べる。

『鉄舟に直接大感化を受けていた者には、清水次郎長、九代目團十郎、角力の高砂浦五郎等がいる』

牛山栄治編著『山岡鉄舟の一生』にも次の記述がある。

《山岡の家へいろいろな者が出はいろいろ、講釈師の円朝も、役者の九代目団十郎も、角力の先代高砂浦五郎もよく来た》

《市川團十郎はよく師匠の家に出入りをしてきた。ある日、ひいきの豪商から贈られたという、新富座の縮緬の引き幕、長さ十四間、幅五間の大物を持ち込んで揮毫を頼んで来た。

あまり大きいので道場で書くことになり、ほうき大の筆と、墨汁がなみなみ用意された。

師匠が何かしげら思案されているので、弟子どもはきつと名文句を考えておられるのだらうと思ひ、何が出るかと皆息をこらしていた。

すると師匠はおどるがごとく幕上を疾駆されたかと思うと、「大入叶」と三文字が飛龍のごとくみごとに書かれたので、今さら一同は感心した。その時の墨代ばかりが、十八円かかった》

このように明治を代表する芸能人であった円朝や九代目団十郎が、揃って鉄舟のところへ来ていたという事実。彼らは「鉄舟に何を求めたのか」、その結果「どのような影響を鉄舟から受けたのか」。これを検討していくのが今号から連載するテーマである。

ところで、十二代

目市川團十郎がまだ十代目市川海老蔵だった昭和59年11月、山梨県市川三郷町の歌舞伎文化公園に「初代市川團十郎発祥之地」の石碑を建立した。



石碑に刻まれた撰文は《抑々 我が市川家発祥の地は何処なるや 探し求めて長きに亘る 時至り昭和七年市川三

升こと十代團十郎來甲の砌 石原家に三百有余年秘蔵せし古文書並びに系図一卷閱覽 書中に曰く 堀越十郎家宣

元武田家に仕え後下総国幡谷に移る 其の孫堀越重蔵江戸に出づ 其の一子即ち初代市川團十郎也云々と 三升驚喜

し 直ちに銅像建立を思い立ちしが果たさず 父十一代團十郎志を承け 此地に木標を建つも既に朽つ 不肖此の処

に佇み父祖の意思を憶い 一碑の建立を發願するに 幸いなるかな普く甲州有志の賛同を得 今茲に 市川團十郎家

發祥顕彰碑の成就を見る 歎喜無量 感悦天翔る如し 此の筈に惜しみなき芳庇を賜りし後援各位の御恩顧 市川

一家一門子々孫々まで 永劫忘れまじきもの也 昭和五十九年十一月吉日 十代市川海老蔵 敬白》

石碑文言を要約すると「市川家の歴史は、永禄12年(1569)初代團十郎の曾祖父堀越十郎家宣が、武田家の

家臣一条右衛門太夫信龍に仕え、天正10年(1582)3月武田家が滅亡し、一条家も滅亡する。市川三郷町の歌舞伎文

化公園に隣接する蹴裂神社が、堀越十郎家宣が仕えた一条右衛門太夫信龍の屋敷跡とされ、ここを十一代團十郎が市川家

發祥の地だと断定し、木標を建て、今回、十二代目市川團十郎が石碑を建立した」と述べているのである。

しかし、インターネットの「山梨歴史文学館」ブログ、「市川團十郎の祖は山梨ではない 甲斐の歴史誤伝」(2016

年03月06日)で《市川團十郎の祖は甲斐の市川三郷町の出自地の歴史なっていくのであろうか。史実とするには確かな史料を積み重ねることが肝要である。歴史は創作してはならぬ

い》とある。果して石碑は正史なのか。次号以下で検討を進める。

絹の話 (119)

「アトリエテレビ」今泉雅勝

木綿の来た道

今日まで絹の話を書いて来ましたが、木綿の伝来、広がりが時代の差こそあれ絹と似ていて、その様な事を対比する為にも一度触れておきたいと思います。

木綿への接触、伝来

木綿の原産地はインドというのが一般的ですが、メキシコ、ペルーにも別の原種があります。

インド綿はインダス文明の人達が使っていた様ですが、西欧人が初めて木綿に接触したのはアレキサンダー大王がインドのパンジャブ地方に侵入した時(紀元前4世紀)「婦女子も皆木綿を着ていた」と、驚嘆の様子が伝えられています。

中国に伝わったのは

唐の時代になって福建省付近で栽培が始まり、南宋の時代(12世紀、平安時代)になって華南で本格栽培が始まり、揚子江流域では良質な木綿織物ができる様になって、山東省方面にまで広がりました。

朝鮮に伝わったのは

中国の栽培から遅れる事約1000年、高麗(李朝鮮(12~13世紀、中国(明、日本(室町)時代に伝来、急速に栽培が拡大して行きました。

日本に伝来

799年(平安時代)三河の矢作川河口に崑崙人が木綿の種子を持って漂着し、朝廷は西国各地に分植させたが生育しなかつたようです。(類聚国史(菅原道真))

日本で木綿の栽培は朝鮮の木綿栽培の約100年後、15世紀(応仁の乱時代)になって西国から始まりした。

日本の木綿栽培の遅れた訳

その1) 初期の木綿種は日本の気候に合わなく、水利、施肥等の栽培技術が未熟で収量も少なく、織物等の加工具も未発達で家内生産の域を出られませんでした。

その2) 上質な木綿が海外から大量に入手出来たから。14世紀の高麗(李朝鮮王朝)は日本から臣下の礼をとった交易では幕府の使節も各大名の使節も同等扱いで、日本側の望む木綿を大量に下賜し、諸大名に大きな収益をもたらしていました。その後、あまりの日本の朝貢が頻繁で、国内の需要を圧迫する様になり、李朝鮮王朝は木綿を日本に下賜する事を禁止しました。

国内で利便性の優れた木綿の需要が急速に高まる中、

各大名は朝鮮から入手困難と見るや、中国の木綿（上質な唐木綿中心）の入手に奔走するのですが、勘合貿易により木綿の出荷量を制限されていたので、倭寇の活躍に依存する様になりました。

木綿の用途（大量需要の始まり）

木綿の感触は従来麻に比べて、感触、暖かさ、染色性の良さなど、万人が虜になるほど素晴らしい物でしたが、庶民の手元には容易に届きませんでした。

軍用！陣幕（麻より鮮明に大きく家紋等染め抜き可能）、馬具、船の帆（筵、麻より風雨に安全で船足アップ！戦はスピードが勝敗を分ける！船の大型化に繋がる）旗指物、手甲、脚絆、火縄（竹繊維＋炭粉↓木綿＋炭粉により小雨にでも長時間消えず最新鋭兵器になる）等。
*織田信長の長篠の合戦で鉄砲隊の木綿制服（制服の概念の発達）！戦意倍増！それほど木綿は庶民の憧れ！
*戦国時代の戦鬪集団の大型化と迅速化が求められ、麻では対応不可能（麻は一人年平均3反）！兵・站の発達。

日本の木綿作付けの広がり

応仁の乱の頃から木綿の需要は急増し、中国等から日本に適した木綿種がもたらされ、西日本から本格生産が始まりましたが、西国では中国からの木綿の入手が可能でしたが、近畿以东には流通が少なく、否が応でも木綿の栽培に力を入れなければならなくなり、伊勢、尾張、三

河等が大産地に変貌して行き、会津まで広がりました。しかし、北部東北地方の人々が木綿を着られる様になるには明治半ばを待たなければなりません。

木綿は中世の経済を一変させた！市場経済

木綿は原料移送可能（麻は乾燥に弱く移送に不向き）で綿花（種取）織等分業され、生産性は麻の10倍で、庶民に年貢以上の余剰ができて市場取引が活発になりました。

楽市楽座の税収 市場経済の発達

織田信長は自国の木曾川など3大河が年中氾濫し、米の年貢では税収が安定しませんでしたので、木綿と染料の藍の栽培を奨励し、楽市楽座などで、交易に税を課し、軍費を調達し、大きく飛躍して行きました。

日本の木綿栽培の終焉

明治開国後、和綿よりも纖維長の優れたアメリカ綿や安価なインド綿の輸入により綿織物工業は発達しましたが、綿花栽培は急速に衰えてゆきました。

絹と木綿

絹も木綿も権力者の貢ぎ物的存在から、軍事用品を経て庶民に浸透して行く様は同じです。

中国は絹を支配し強大になり、今日のアメリカは世界の綿花生産の80%を占めて、時代をリードしています。

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣

2020年9月4日

エアコンが苦手な方はパジャマを

台風の影響からか湿度が上がリ

身体に負担が出やすくなっています

少し汗の量が減って小便の回数がいきなり増えた

というくらい水以外で水分摂取して行きましょう

エアコン無しでも

寝れる日もちらほら出てきたなと思いきや

やはりエアコンが無いと寝れない日などが

交互にやってくる様な気がします

エアコンが苦手な方は

就寝時のエアコンはこたえますよね

でも つけないと寝れないし体力が削られます

エアコンをつけて寝ると朝方愈々

汗をかくまで中々調子がよくなりません

そこで エアコンの風を直接身体に当たらせないとい
うことが大切です

夏場は暑く半袖・半ズボンの様な肌の露出が多い服装
になりがちですが

夏用の薄手のパジャマを着用することをお勧めします

この 本田のひとり言 でも何回も書いていますが

就寝時は 天然素材のパジャマが一番です

スエットと違い 手首・足首の締め付けもな々

体温調節もしやすく快適ですので睡眠に適しています

エアコンが苦手な方は

特に下半身の長ズボンを履くことが大切です

(睡眠時 靴下は絶対にはかないようにしましょう)

もちろんエアコンのタイマーもセットして

起床する2時間前には切れる様にしておきましょう

今日も笑いながら行きましょう

2020年9月2日

季節の変わり目に向けての準備

朝晩涼しくてゆっくり寝れます

9月に入り鈴虫が鳴き出し

ひべらしのなく頃になると少し寂しさを感じます

もう少しで季節の変わり目です

季節の変わり目は

暑さに耐え身体に負担になったものや

冷たいものを食べて内臓を冷やしてしまったものの反動

夏のツケといえますか

夏の疲れが秋から冬にかけて出て来ます

わいっ

寒暖差に身体への負担が1番大きくなる時期です

ですの

とても身体に負担がかかり体調を崩しやすくなります

体調を崩しますと免疫力がガクンと落ちてしまいます

そこで

入眠時間が遅い方は22時にする

湯船にゆっくりつかる

起床時にぬるま湯を飲む

ゆたぼんを辛いところ(こ)当てる

深呼吸をする

などをしてみて下さい

それでも体調がすべれない方は御電話下さい

季節の変わり目に向けて準備して行きましょう

今日も笑いながら行きましょう

「江上浩二の独り言」 34 江上浩二

安吾と感動

都市には静寂がない。

空が白みかけるやいなや、主であるカラスの鳴き声、学校の鶏の雄叫び、ときには季節の渡り鳥のさえずり、先ず人間さまより早起きの鳥類の声。鉄道の走り出すレールの音、山手線の始発は確か4時30分ごろだろうか。家々が目覚める朝時の雑音、車が動き出し、人が走り出す。地下鉄に駆け込む通学の子供たち。都心では電車で通学する小さな子供達が多い。

地下鉄に乗るとアナウンスの声、レールの金属音、ブレーキや急な曲がりで混雑・雑踏の中で居眠りしている人もハットする。オフィスビル近くの地下街。清掃機の音、女性のヒールの音、何か物をたたく金属音。

近くの高速度道路を走る車の低周波振動も伝わってくる。又、始まった「おばさん」が使う清掃機のガタガタ、

ゴトゴト、ゴーゴーという音。ふっと振り返り顔を見やると、失礼、朝からお掃除をしてくれていたのは若い女性。否、当然そう思っていたシルバーのおばさん・おじさんではなかった。フリータ上がりに見える若い女性であつた。その女性の生い立ちを憶測する間もない。

坂口安吾著、安吾史譚（しだん）―源頼朝― 章の一節に

本当に人の心をゆりうごかす感動は、顔の表情の逆上のなユガミだの、涙だの、叫びだのを伴う必要のないものだ。それは本来最も静かなものである。なぜなら、本当の感動とは、その人の一生をかけたジミな不断の計算や設計の中にしかないからだ。本当の感動とは本当の生活ということであり、つまり一番当り前のタダの生活、着実をきわめたタダの生活ということである。だから、彼（頼朝）が感動に逆上亢奮して拳兵した当初というものは、まるでもう足が地を踏んでいないようなダラシなさであつた。

という、静かなる人をゆり動かす感動について書かれている。

このくだりはまさに現代の生活に欠けている静寂について、きつい一言だ。

物理的な共鳴は音でも電波でも、同じ周波数（一定の時間に繰り返す波の数）で、強制的にパワー（力）を与えれば、ドの高さで鳴っている音叉が近くにある音を発していない音叉をドの音で鳴り出させるような現象で、こころの中で感動しなくとも、強制的に自動的に音が上がりに出してしまうことだ。本当に強制だ。

現代に欠かせない携帯電話。無線という電波が見えないがどこかに立っているアンテナから発せられ、手に持っているのはやりの携帯電話（スマートフォン）に届いて、綺麗な音が鳴り出す。勝手に電波が手元の携帯電話にきたのではない。実は特定な周波数を持った電波に携帯電話の受信アンテナが共鳴しただけである。しかし、共鳴したものは非常に弱く、電氣的に増幅されて、初めて小さなスピーカーから冬ソナが挨拶する。実

は携帯電話で話すより、文字や記号でメールを送り、地下鉄がホームに近づくと静寂、無言のコミュニケーションが始まる。今は、若者だけでなく約1億人をゆり動かす静かなる感動を、携帯電話はもたらずなのであるか。

最後に、安吾が嘆いています。静寂ではあるがバッグから取り出す小道具による作業、地下鉄の混雑にも関わらずご自分の面々を化粧う（つくろう）女性。ゆり動かす感動がありましたか。

平成16年11月、冬ソナが流行った時期に記す。

漢詩研修 (四十八)

千代田岳精会 平井茂行

雨ニモ負ケズ

言 沢 賢 治

雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ 雪ニモ

夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ

欲ハナク決シテ瞋ラズイツモ静ニワラツテイル

一日ニ玄米四合ト味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシワカリソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ小サナ萱ブキノ小屋ニイテ

東ニ病氣ノコドモアレバ行ツテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ行ツテソノ稲ノ束ヲ負イ
南ニ死ニシウナ人アレバ行ツテコフガラナクテモイトイ
北ニケンカヤンシヨウガアレバツマラナイカラヤメロトイ
ヒデリノトキハナミダヲナガシサムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボウトヨバレホメラレモセズ
クニモサレズソウイウモノニワタシハナリタイ

【作者】

宮沢賢治（一八九六—一九三三）明治二十九年、岩手県花卷市に質・古着商の長男として生まれる。詩人・童話作家で日蓮宗徒。盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）卒業。大正十年（一九二一）から五年間、花卷農学校教諭。教え子との交流を通じて岩手県農民の現実を知り、羅須地人協会設立、農業技術指導、レコードコンサートの開催など、農民の生活向上を目指し粉骨砕身するが、理想かなわぬまま過労で肺結核が悪化、最後の五年間は病床で作品の創作や、改稿を行った。生前刊行されたのは、詩集『春と修羅』『注文の多い料理店』のみ。

『聴く耳を持つ』

中屋保之

他人の言うことに、聴く耳を持たなくなるゝと、人相が悪くなる。なんの科学的根拠もないが、そう思えてならない。我が国の首相が突然辞任した。二〇〇七（平成十九）年八月も終わりの頃の話である。その前年の九月に彼は、五十二歳と戦後最年少で首相に就任した。当時、若さが期待を持たせていたはずである。その頃の容貌は、私には「いい顔」に見えた。『お友達内閣』と揶揄されたように、その頃は「聴く耳」を持っていたのではないかと、勝手に想像を逞しくしている。二〇一二（平成二十四）年十二月、第九十六代総理大臣としてカムバックを果たしてからは「いい顔」が、私には「よくない顔」から「悪い顔」に変貌していったように感じられる。断っておくが、あくまでも私の主観と勝手な思い込みである。国会や記者たちへの応対に、聴く耳を持たなくなるゝ悪弊が目立つようになった気がする。歴代総理でいえば、容貌が変わらなかつたのは、村山富市氏、小渕恵三氏辺りで、変貌が激しかったのが、田中角栄氏、橋本龍太郎氏などであろうか。

これは、何も政治家に限ったことではない。会社勤めをしている時の経験でも、役付きになった途端「いい顔」から変貌を遂げていった人物を少なからず見てきた。恐らく周りの人間の言うことに、聴く耳を持たなくなるゝ傾向が強くなっているはずである。もちろん、国の指導者など背負うものが多くなる方々の苦労には頭が下がる思いはあるものの、もう少し他人の言うことに、聴く耳を持つゝと良いのと思うこともしばしばある。

元上司に、今でも「いい顔」でいてくれる人がいる。彼から大きな声どころか、叱責された覚えもない。それどころか、若手であつた我々の侃々諤々の討議を傍らで、まさに『聴いて』いるのである。その内容を文書に纏めて提出しに

ゆくと、一瞥して却下される。そして、纏めるために必死で書いたメモを持つてくるように指示されるのである。自分でも判読できないような字を見ながら、「綺麗にした文章にはなんの興味もない。そこで議論した生の声が貴重なんだよ」と、『聴く耳を持つ』大切さを教えてくれた。また、ある時私が犯したミスを報告に行った時は、言い訳と言つてもよい経緯を「聴い」てもらった後、「お前が良しと判断したうえでの結果なんだよなあ」と言われ、二度とミスはすまいと心に留めた事を思い出す。人間は、「聴いて」もらったと感ずると、たとえ自分の意見が通らなかつたとしても納得する傾向が強いそうである。そんな経験が、私の会社生活の晩年を豊かにしてくれることになる。

敬慕する上司の元を巣立つ日が来た。二〇〇〇年六月、超ベテランになった私に与えられた職務は、地方支店での営業サポートであった。十年以上若い支店長から「中屋さんはどんな仕事やりたいですか」と「聞」かれた。支店長の思いをよく「聴く」と、お客様の不安や不満を出来るだけ解消して取引を円滑に継続していただけるようにする事とセミナーなどの講師が私の仕事と理解できた。早速この『聴く耳を持つ』が役に立つ。支店長や担当の社員が持て余していて、ともすれば双方言い募る、聞き捨てる状態であったお客様と『聴く耳を持つ』って接するよう心掛けてみた。その結果がよかった。この一件以来、支店での私の居心地は快適と云つてよいほどになった。

再度断つておくが、歴代総理についてのコメントは何の根拠もない。ましてや私の今の顔が「いい顔」だとは思わないが、そうありたいと願っている。

偶成ぐうせい

令和二年七月二十五日

五更作有り

一時雨激し

横山精真

連陰れんいん断続だんぞくして
既すでに憂うれいを延ひく

宇内うだいの被災ひさい
留とどむるを覚おぼゆる無なし

疫下えきか今年こんねん
未いまだ策さくを成なさず

暗中あんちゆう雨あめは激はげし
復また愁うれいを重かさぬ

(語釈) ○連陰：毎日雨が降る。○延句：長引かせる。○宇内：あめがした。

(通釈) 毎日降つたり止んだりの梅雨が未だ長引いて憂うる処だ。全国の被害は留まる処を知らない。(近年の大雨は必ず大災害を伴っている)

今年(思いも寄らない歴史的な)コロナの大変に追われているが、功を奏するようなこれと云った対策は成さ
れていない。

夜中激しい雨音で目が覚めた私はまた、心配を重ねる思いになるのだ。

偶成 令和二年七月二十五日五更有作 一時雨激

連陰斷續既延憂 宇内被災無覺留
疫下今年未成策 暗中雨激復重愁

※地球がどうかなくなっているのではないあ。或いは何者かが何かを警告してい

るのではないか！近年そんな事を思わずにはおれない。地球の温暖化、自然の破壊は雨の降り方、コロナの出現に
現われているのではないか？そんなことを思わずにはおれないのである。

スウェーデンの若い女性が地球温暖化に警鐘を鳴らしているが、我々は此の気の遠くなるような運動を人間一人一
人が真剣に立ち向かう時ではないかと心から思うのである。

我々は現象に怯えるのではなく、根源に目を向ける時であろうと。

仏像彫刻 (九)

vi
叩きノミ



- 最左端から、
1. ゴム・ハンマー
 2. 平ノミ、一寸(30mm)
 3. 三角ノミ、三・五分(10・5mm)
 4. 外丸ノミ、五分(15mm)
 5. 曲がり丸ノミ、四分(12mm)
 6. 深丸ノミ、四分(12mm)
 7. 浅丸ノミ、六分(18mm)
 8. 浅丸ノミ、八分(24mm)

藤崎 徹

vii

その他、曲尺、トウスカン、のこぎり、かなな、から始まりあらゆる大工道具が使われます。



1. 糸のこぎり
2. 両刃のこぎり
3. 片歯のこぎり
4. かなな
5. かなづち
6. とうすかん
7. 曲尺

可能な限り、写真で説明いたしました。

芭蕉と子規

夏目勝弘

「おくのほそ道」と(はてしらずの記)の俳句を旅の道の同じ所で、作つた句を併記して、その違いをみてみることにする。

○草の戸も住替る代ぞひなの家 芭蕉

門出に先だち、芭蕉庵を人手にゆずり、旅の思いが去来していたであろう。紀行本文「幻のちまたに離別の泪をそそぐ」に続けると、出立に際しての惜別句として、

○行春や鳥啼き魚の目は泪 芭蕉

方や子規は、医師にいさめられても、七月十九日東都の假住居より旅立つ。

○松島の心に近き袷かな 子規

と心配に思いながら遊曆の旅に出る。

旅立にあたり誰彼より多くの饑別の句あり。

○松島へ晝寝しに行く行脚かな 孤松

○松島の風に吹かれんひとへ物 子規

の一句を留別として上野停車場に(奥羽北越の遠きは昔の書にいひふるして今は近きたとへや取らん)と

○みちのくへ涼みに行くや下駄はきて 子規

芭蕉は死を思い、子規は涼みに行く、両者の俳句に対する違いがある。

芭蕉は「芸術極致は宗教的なる悟り」とまた「季」は神仏の流転のお姿。と

子規に

○五月雨や大河を前に家二軒 蕪村

○菜の花や月は東に日は西に 蕪村

の写実的なものを良しとした。

○武蔵野や青田の風の八百里 子規

○夕立や殺生石のあたりより 子規

など詠み宇都宮に泊る。

○夕立や殺生石のあたりより 子規

汽車にて宇都宮を発す。即景にて

○田から田へうれしそうなる水の音 子規
○汽車見るく山をのぼるや青嵐 子規
白河駅にて下車。(殺生石等は行かす)

退職後「おくのほそ道」を青春キップ二枚分の旅をしたことを思い出している。

芭蕉の白河までの旅は、日光山の麓で泊る。

○暫は滝にこもるや夏の初 芭蕉

翌二日は裏見の滝や含満寺を見て、日光から那須に向けて東へ進み、現在の塩谷村の名主の家で泊る。

そして、那須野黒羽では黒羽藩の家老の家にて十数日間を滞在する。

余瀬の光明寺で役行者の像を拝し

○夏山に足駄を拝む首途かな 芭蕉

前途の健脚を祈る。

これより東南三里に、雲巖寺があり、仏頂和尚が修業した遺跡で

○木啄も庵を破らず夏木立 芭蕉

そして那須の湯本へ、浄法寺図書の計らいで馬が用意された。馬を引く者に揮毫の一句

○野を横に馬ひきむけよほととぎす 芭蕉
湯本殺生石へ、山肌は昆虫の骸に覆れていた。

西行法師、陸奥へ旅の途中で

(道のへに清水流る柳かげしばしとてこそ立ちとまりつれ)と芭蕉は西行を

忍び

○田一枚植えて立ち去る柳かな 芭蕉

白河の関はその頃はすでに荒廢していた。昔、平兼盛が(たよりあらばいかで都へつげやらむきょう白河の関は越えぬ)と

芭蕉と曾良は、阿武隈川を渡つて矢吹に泊し、須賀川の宿で相楽等窮を訪ね、数日滞在、等窮への挨拶として

○風流の初めや奥の田植歌 芭蕉

滞在中、歌仙を巻く、芭蕉の発句は

○かくれ家や目立たぬ花を軒の栗 芭蕉

(芭蕉翁記念館、発行の松尾芭蕉、より引用)

「氷魚」のことから (237) 岡本八千代

まだ世界中がコロナ禍のまっ最中。私の住む町も、若い人はもちろん外出は禁止である。クーラーは一日中、かけっぱなしである。そのうえ、夏の暑さの熱中症に苦しめられる。

そのような気配のうちにも今朝は驚いた。庭のま中に自生えの百日紅サルスベリの花が咲いているではないか。しかも、夾竹桃の葉かげの向こうにちらちらと。

さて、今回は、斎藤茂吉の「をさな妻」について書くことにした。茂吉全集第一巻を開いてみた。「をさな妻」は明治四十三年の「赤光」に十一首発表されている。やはり、茂吉の息子（二男）北杜夫の説明に添ってゆきたい。

茂吉は、明治38年（1905年）23歳で、斎藤紀一、勝子（妻）の婿養子となった。その時、やがて妻となる輝子はまだ十歳で子供である。もちろん、結婚はしていないことは言うまでもない。茂吉は、輝子をおんぶして子守りしたほどだった。：そういう目で「をさな妻」の歌を読んだ方がよいのではないか。

例えば、

○墓はらのとほき森よりほろほると上のぼるけむりに行かむとおもふ

○木のもとに梅はめば酔しをさな妻ひとにさにづらふ時
たちにけり

○細みづにながるる砂の片寄りに静まるほどのうれひな
りけり

これらの歌に対し、茂吉はこの中で、

○「明治四十三年の雑歌である。明治43年九月から卒業試験がはじまり、私は本郷に下宿したりして、その年末には卒業試験を終ったのであった」——と。

○「この年の傾向はこんなもので、歌にある種の細みを要求し、感傷を漂はさうとしているように見える。表現の技巧も幾らかづつ自由になり、歌壇の雑誌などものぞき読みしたのであった。」と、かなりの自負の念を書くようになった。載せた歌のうち、「木のもとに……」の歌の、「さにづらふ」ということばがあったが、この「さにづらふ」は、「君」「いも」「おとめ」「紅葉」「色」などにかかると言われている。まだ青い梅の実をもぎつつ食べてみるということは、私でさえ、幼ない頃は、経験したこと

がある。今は、青い梅の実を見るだけで満足である。歌にしてみようかな。また、大正元年頃の歌に

○寝ねがてにわれ烟草すふ烟草すふ少女は最早ちよは眠りあるらむ

○けだものの暖かそうな寝ねすがた思ひうかべて独り寝にけり

○水のべの小花の散りどころ盲目めしひになりて抱いだかれてくれよ

北杜夫曰く、「この当時は確かに母を愛していた」「いや田舎者が都会の令嬢に憧れるようなおののきだったかも知れぬ」と。――。

編集室だより【二〇二〇年八月】

今泉 由利

○小学低学年の頃だった。台所の母を手伝うつもり、掃り鉢をしつかりおさえていたとき、「家のことばかりしている人になりたくない」と相談すると、母は、「自分の好きな生き方を、自分の力で作りなさい」と、諭して下さった。自分で自分に責任をもつ、を根本にして生きてきた。

○隅田川 夏の流れに 添いてゆく やすこ作
東京は、隅田川。隅田川近くに住んでおられ、常にご夫妻で散歩されていることを伺っていた。作者が、はじめて作られた俳句です。いつもの隅田川、夏になりましたねとお二人で隅田川の流れに添って散歩しておられる様、ほのぼのと、やさしさが漂います。激しい言葉は必要ないです。

○聖観音立像
鞍馬寺の定慶作、聖観音が、最も正式なお姿といわれ、左手に持たれた蓮華の蕾を、右手で一枚開かれようとする形。蕾を開くことは、悟りを聞くに通づると。聖観音は、宗派のわくにとらわれない仏像ですから、何処にでもお祀りすることが出来ます。

○自分で集めた本ばかりの、小さいけれど図書室があります。一冊一冊が自分の意志で置いてあるのに、自粛籠りで、やつと気がついた。調べたいこと、だいたい伏線なり印がしてある。え、こんなに！もう調べたことがあったのだ。

忘れていることを大発見。

運慶一門の聖観音菩薩立像の本も、私の図書室に、すでにあったのだ。千年も前の木彫に弾きとばされそう。こういう気持を感動というのだろう。掛け離れすぎているのだけれど、自分で彫りはじめて、やつと気付くことがある。みえてくるものがある。

○テニスのUSオープンを見ていた。大坂なおみさんが、映像で母上と話をされている様子が写った。「足の調子はどう！」と母上「だいじょうぶ」「ありがとう」となおみさん。大きな人種差別のなかを、多種類の言語のなかの、母と子の日本語の「ありがとう」。

私と子供達との会話のいつもの「ありがとう」を「ありがとう」と思いかえすのだった。

○小学五年生の時の学芸会だった。父が考証した「万葉の引馬野」。

引馬野爾 仁保布榛原 入乱 衣爾保波勢 多鼻能知師爾
引馬野に にはふはり原 いらみだり 衣匂はせ 旅のしるしに

大宝二年壬寅十月、時の太上天皇であられた持統天皇が参河国へ御幸された時、従駕した巨下の人々の中の作歌の内一首。
担人の先生がオルガンを弾いて、私が、学芸会の舞台上で、歌うのか、吟じるといふのか…。
大変なことをしたものだ！と思ひ出した。

野菜・果物・まんだら (32) チコリ (キクニガナ) 学名 *Cichoriumintybus*



- キク科、ニガナ属、多年草。
- 原産地はヨーロッパ
- ギリシャ、エジプト、ローマ時代から栽培されていた。フランスでは17世紀にサラダ用として栽培が始まる。
- 日本へは、江戸末期に入ってきた。チコレの名で広まった。
- 白菜のような結球をもち、株元に鋸歯葉をつけ、葉腋に青い花を咲かせる。チコンという筍のような芽を収穫する。
- 花はサラダに、蕾はピクルスに、チコンは、多用に料理出来る。若い根は、蒸したり、煎ってコーヒーに混ぜると、コーヒーの刺激が中和される。
- イヌリンという成分が含まれて、血糖値の上昇を抑制する作用がある。
- 悪玉コレステロールの酸化抑制するポリフェノール、食物繊維、カリウム、利尿作用改善。
- チコリ酸の抗酸化作用は、肝機能向上、脾臓、胆のう、腎臓の浄化作用あり。食欲不振、消化器系の改善、
- タンニンを多くふくみ、毛穴や肌を引きしめる。
- アルゼンチンでの生活。毎日、それぞれの一日のことを終えた夕刻、私の家だったり、セリーナさんのお宅だったりに集まって、アベリティブ（食前酒）の時を過す。スペイン語では、コペティンという。その時のお酒のおつまみに、チコリ（アンディーブ）を舟形にほぐし、クリームチーズとロッケフォル（カビチーズ）をあえたものをチコリに乗せていただくのです。
- 今思うと、身にも心にも、理にかなった良い習慣だった。なつかしくてたまらない。

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一四・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

TEL (〇三) 五九二四・二〇六五

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail yuriiimaizumi@jcom.zaq.ne.jp

◇編集・発行 今泉由利・森岡陽子

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇会員・今まで会員の方。希望される方。

◇会費制 廃止。

◇新しく購読を希望される方 一ヶ年五千円。

◇振替口座 〇〇八三〇・六・五六二二九

◇原稿送付先 〒一四・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

今泉由利 宛

◇原稿は毎月末日までに郵送下さい。